R４年度　　鹿児島定着度調査分析　　平川小学校

※ 取り扱いについては注意してください。

1　各教科通過率の比較（県，本校）※令和５年２月４日現在の県速報値

	国語	社会	算数	理科
県	70.9	77.5	67.4	71.6
本校	76.7	80.7	77.7	85.7
比較	△ 5.8	△ 3.2	△ 10.3	△ 14.1

※通過率80％以上は緑色表示，70％未満の部分は赤色表示

2　各教科「知識・技能」「思考・判断・表現」の通過率

	国語	社会	算数	理科
知識・技能	79.3	83.7	82.9	86.4
思考・判断・表現	73.8	74.6	69.0	84.9

※通過率80％以上は緑色表示，70％未満の部分は赤色表示

3　各教科領域ごとの通過率

国語	通過率
話すこと・聞くこと	66.7
書くこと	66.7
読むこと	88.1
知識・技能	79.3

社会	通過率
地形・気候	81.3
農業	88.8
水産業	71.4
工業	78.6
貿易	75.0

算数	通過率
数と計算	83.9
図形	69.6
測定・変化と関係	82.1
データの活用	75.0

理科	通過率
物質・エネルギー	82.9
生命・地球	88.6

※通過率80％以上は緑色表示，70％未満の部分は赤色表示

4　分析・考察（○の中の数は該当学年）

（１）１より，４教科とも県平均を上回る。特に，算数，理科において，県より大きく上回る。

（２）２より，「知識・技能」については，社会，算数，理科は８０％を上回る。国語において，８０％程度ではあるが，他教科と比べてやや低い。「思考・判断・表現」については，国語，社会は７４％程度であるのに対し，理科は８５％程度と上回り，算数においては６９％と他教科と比べてやや低い。

（３）３より，領域別に見ると，国語では「話すこと・聞くこと」，「書くこと」が６７％程度と低いが，「読むこと」が８８％程度と高い。社会では，「農業」が８９％程度と高く，「水産業」が７１％程度とやや低い。その他領域は７５％後半程度である。算数では「図形」がおおむね７０％と低めその他領域は７５％後半程度であり，「数と計算」「測定・変化と関係」は８２％～８４％と高い。理科ではどの領域も８３％程度をこえている。

（４）「国語」：主に知識・技能の問題では「文中の主語・述語の関係③④」，「修飾・被修飾の関係③④」，「常体の文末を敬体に書き換える⑤」の通過率が低い。また，思考・判断・表現の問題では「目的に応じて考えが伝わるように書き表し方を工夫する⑤」，「事実と感想，意見を区別する⑤」，「資料を活用して考えが伝わるように表現を工夫する⑤」の通過率が低い。

（５）「社会」：主に知識・技能の問題では「我が国の領土やその位置⑤」，「地球上の位置を表す仕組みの理解⑤」，「資料から正しい情報を読み取る⑤」の通過率が低い。また，思考・判断・表現の問題では「領土を守ることの意味を説明する⑤」，「資料をもとに持続可能な漁業の取り組みを説明する⑤」，「２つの資料から正しい情報を読み取る⑤」の通過率が低い。

（６）「算数」：主に知識・技能の問題では「除法の式の意味の理解⑤」，「図形の性質や構成要素に着目して他の図形を構成する④」，「棒グラフから数量を読み取る④」の通過率が低い。また，思考・判断・表現の問題では「示された図形の面積の求め方を解釈し，その求め方の説明をする⑤」，「二つの道のりの差を求めるために，必要な数値からその求め方と答えを記述する③」，「資料の特徴や傾向を関連付けて，一人当たりのごみを出した量の増減を判断し，その理由を記述する④」の通過率が低い。

（７）「理科」：主に知識・技能の問題では「並列つなぎの回路に流れる電流の向きと大きさの理解④」の通過率が低い。また，思考・判断・表現の問題では「乾電池２個のつなぎ方と電流の大きさや向きを関係づけて考える④」の通過率が低い。

（８）どの教科も，「資料を正しく読み取り内容を捉える」ことや「資料を参考にしながら自分の考えを整理して意見や説明を記述する」ことに弱さが見られる。

5　今後に向けての取組

【学習において】

（１）＜国語＞…文章中の主述，修飾の関係を正確に捉えさせるようにする。一文を短くすることを意識しながら，考えを順序だてて文章に書き表す機会を多く設定する。

＜社会＞…資料から分かることを正確に捉えさせ，考えられることを言葉で伝えられるようにする場面を多く設定する。

＜算数＞…問題の中から，分かっていることと聞かれていることを正確に捉えさせるようにする。解き方を順序だてて相手に伝えるように書いたり話したりする場面を多く設定する。

＜理科＞…実際の操作を伴って考える場面を設けたり，動画素材を効果的に活用したりする。

（２）通過率が７５％を下回った問題を中心に，小テストや家庭学習等で繰り返し指導し，該当学年で学習するものを確実に身に付けさせて進級させる。特に「知識・技能」は確実に習熟を図る。

（３）Ｗｅｂ問題を活用する。（時間的な制限もあることから，多くの問題に当たらせるよりも問題を厳選して解答の仕方が身に付くまで繰り返し活用する　など）

（４）正しい解答例を書くことで手順を理解させる場面を設定する。

※　個に応じた指導の工夫や補充指導をする。（場の設定，時間確保）

【生活において】

・　保護者の協力を得て，家庭学習の時間（【１０×学年＋２０】分）を確保させる。

・　保護者の協力を得て，やるべきこと［宿題，明日の準備　等］を確実に行わせる。

・　学習へ向かう意識を高められるよう，家庭や学校で学習に前向きになるような声掛け励ましを行う（例，できているところを認める　続けられていることを励ます）。